



お母さんに知ってほしい 「頭のいい子を育てる5つの習慣」

明るく前向きな性格で、かつ勉強もできる。そんな優秀な子どもを育てるためには、脳がどのようなしくみで理解・判断するのかだけでなく、その力を引き出す気持ち、その基盤となる本能との関係、そこからどのようにこころや考えが生まれてくるかなど、しくみの全体像を知っている必要があります。

頭をよくするための、脳の本質的なテーマを理解することによって、今わが子の脳ではどこが伸びてきていて、どこが後れをとっているのか、またそれらを克服するためには、どんな言葉をかけ、どんなほめ方・叱り方をすればいいのかなど、具体的な方法も見えてきます。

勉強ができる頭のいい子が育つ親子や家庭には、共通して、次の5つの習慣があります。

- ① 何事にも興味をもつ習慣…（A10神経群を鍛える）
- ② 成功体験が多く、最後までやり遂げる習慣…（前頭前野を鍛える）
- ③ 「子どもの脳に入る会話」の習慣…（同期発火の習慣と自己報酬神経群を鍛える）
- ④ 「大体、できた」を認めない習慣…（自己報酬神経群を鍛える）
- ⑤ 自分の弱点を言える習慣…（ダイナミック・センターコアを鍛える）

なぜ、この5つの習慣が、頭のいい子を育てるのでしょうか。

それはこの5つの項目に、才能を発揮するために必要な脳のメカニズムがすべて含まれているからです。

人間の知能を司る脳機能は、本能を基盤にして、一定の手順で生まれてきます（53ページ図③）。この手順に従って、その機能を育むための習慣を乳幼児期から心がけていくと、勉強ができる、頭のいい子を確実に育てることが可能になります。大事なことは、その習慣が何を育むのか、またとりわけ何が、もつとも大切な習慣なのかというポイントを、お母さんが理解し、把握していることです。では順を追って、5つの習慣を説明していきましょう。

① 何事にも興味をもつ習慣…（A10神経群を鍛える）

考えを生み出す脳機能は、最初に、「好き」「面白い」「興味がある」などのポジティブな気持ちを、「A10神経群」で生み出すことから始まります。そのことについては、1章でも説明しましたね。

この感情は、脳がもつ7つの本能のうちのひとつ「自己保存の本能」